

## 市町長から提出された意見書

番号	市町名	内容
1	伊賀市	<p>この度公表された県議会の定数を現行の51議席から48議席にする中で、伊賀市選挙区の定数削減には、市町として地域住民として納得いくものではありません。</p> <p>1票の格差の是正や定数の削減の必要性は理解するところであります。</p> <p>その中で、今回の改正案を拝見したところ、1票の格差が最小の亀山市選挙区と比較した場合、伊賀市選挙区は1.75倍です。一方で、2倍を超える選挙区は放置されたままとなっています。そのような中で、本市に対して丁寧な意見聴取や説明のないまま、唐突に伊賀市選挙区の定数を削減することが示されたことは、極めて遺憾であります。このことは、三重県政全般において、伊賀市民の参政権を軽視していると言わざるを得ません。</p> <p>ついては、「伊賀に県政なし」が深まる拙速な定数条例改正について、三重県民である伊賀市民に適正な説明をなされるよう強く要請致します。</p>
2	御浜町	<p>この度公表された選挙区及び定数に関する正副議長案において、尾鷲市・北牟婁郡選挙区と熊野市・南牟婁郡選挙区を合区し定数を現行の4人から3人に削減することが示されました。</p> <p>前回は平成28年に、定数削減について県議会から市町長や市町議会議長に対して説明を行い、市町の意見を聞く場がありました。今回はそのような手続きは行われておらず、市町の意見は何も聞かれておりません。県議会の総定数の削減や1票の格差の是正についての検討を行うことは理解するところでありますが、特に定数を削減する選挙区内の市町に対しては、あらかじめ丁寧な説明や様々な意見を吸い上げる努力が必要であったと考えます。この点について強く抗議するとともに、適切な説明がなされ、かつ市町の意見を聞く機会を設けていただくことを強く要請します。</p> <p>東紀州地域は面積が広く、南北に長く、山間部やリアス式の海岸部に集落が点在しており、近年道路整備が進んでいるとはいえ、各地域間の移動にはかなりの時間がかかることは変わりません。合区を行い選挙区が広がることで、議員と住民の結び付きが希薄となり、住民の意見が県政により届きにくくなることが懸念されます。また、現在でも紀北地域と紀南地域の間は生活圏として一体となっているとまでは言えない状況です。</p> <p>1票の格差を是正する方法としては、定数が少ない特定の選挙区の定数増を行う方法があり、このことについて十分に議論を尽くすべきと考えます。</p> <p>このように、今回の正副議長案は、地域の実情に応じたものとはなっておらず、議論も尽くされていないと考えますので、強く反対いたします。</p>

番号	市町名	内容
3	熊野市	<p>この度公表された選挙区及び定数に関する正副議長案において、尾鷲市・北牟婁郡選挙区と熊野市・南牟婁郡選挙区を合区し定数を現行の4人から3人に削減することが示されました。</p> <p>今回は平成28年に、定数削減について県議会から市町長や市町議会議長に対して説明を行い、市町の意見を聞く場がありました。今回はそのような手続きは行われておらず、市町の意見は何も聞かれておりません。県議会の総定数の削減や1票の格差の是正についての検討を行うことは理解するところでありますが、特に定数を削減する選挙区内の市町に対しては、あらかじめ丁寧な説明や様々な意見を吸い上げる努力が必要であったと考えます。この点について強く抗議するとともに、適切な説明がなされ、かつ市町の意見を聞く機会を設けていただくことを強く要請します。</p> <p>東紀州地域は面積が広く、南北に長く、山間部やリアス式の海岸部に集落が点在しており、近年道路整備が進んでいるとはいえ、各地域間の移動にはかなりの時間がかかることは変わりません。合区を行い選挙区が広がることで、議員と住民の結び付きが希薄となり、住民の意見が県政により届きにくくなるのが懸念されます。また、現在でも紀北地域と紀南地域の間は生活圏として一体となっているとまでは言えない状況です。</p> <p>1票の格差を是正する方法としては、定数が少ない特定の選挙区の定数増を行う方法があり、このことについて十分に議論を尽くすべきと考えます。</p> <p>このように、今回の正副議長案は、地域の実情に応じたものとはなっておらず、議論も尽くされていないと考えますので、強く反対いたします。</p>
4	紀宝町	<p>この度公表された選挙区及び定数に関する正副議長案において、尾鷲市・北牟婁郡選挙区と熊野市・南牟婁郡選挙区を合区し、定数を現行の4人から3人に削減することが示されました。</p> <p>今回は平成28年に、定数削減について県議会から市町長や市町議会議長に対して説明を行い、市町の意見を聞く場がありました。今回はそのような手続きは行われておらず、市町の意見は何も聞かれておりません。</p> <p>県議会の総定数の削減や1票の格差の是正についての検討を行うことは理解するところでありますが、特に定数を削減する選挙区内の市町に対しては、あらかじめ丁寧な説明や様々な意見を吸い上げる努力が必要であったと考えます。この点について強く抗議するとともに、適切な説明がなされ、かつ市町の意見を聞く機会を設けていただくことを強く要請します。</p> <p>東紀州地域は面積が広く、南北に長く、山間部やリアス式の海岸部に集落が点在しており、近年道路整備が進んでいるとはいえ、各地域間の移動にはかなりの時間がかかることは変わりません。合区を行い選挙区が広がることで、議員と住民の結び付きが希薄となり、住民の意見が県政により届きにくくなるのが懸念されます。また、現在でも紀北地域と紀南地域の間は、生活圏として一体となっているとまでは言えない状況です。</p> <p>1票の格差を是正する方法としては、定数が少ない特定の選挙区の定数増を行う方法があり、このことについて十分に議論を尽くすべきと考えます。</p> <p>このように、今回の正副議長案は、地域の実情に応じたものとはなっておらず、議論も尽くされていないと考えますので、強く反対いたします。</p>
5	伊勢市	<p>「総定数の削減」については、人口減少、1票の格差の是正等の観点からその必要性について理解するところでありますが、「鳥羽市選挙区と伊勢市選挙区の合区」については、これまでの本市と近隣市町とのつながりの中で、消防、可燃ごみ・し尿処理施設、老人福祉施設、斎場等市町間の広域行政においては伊勢度会圏での運営が中心であり、また、県行政である警察や建設事務所の管内も同様となっております。</p> <p>さらに行政以外においても伊勢地区医師会の区域、伊勢度会での子供たちの体育大会の開催やスポーツ少年団の交流等から、住民意識としても今回の鳥羽市との合区案については違和感があると言わざるを得ません。</p> <p>また、今回の正副議長案については、パブリックコメントは実施されているものの、関係市町への意見聴取や十分な説明がなかったものであり、地域の実情を十分に考慮されたものとは言い難いと考えます。</p> <p>つきましては、県内各市町の意見、県民の意見を十分に聞き取っていただいた上で再度検討いただきますようお願い申し上げます。</p>